

播磨地域の4市でトモンハナバチを確認

柴田 剛

播磨地域4市の6カ所でトモンハナバチ *Anthidium septemspinatum* Lepeletier, 1841 を撮影, 採集したので報告する. 全て加古川の河川敷にムラサキツメクサ (マメ科), ミドリハッカ (シソ科), ツルボ (キジカクシ科) が群生して咲いているところであった. 河川敷でこれらの花が群生しているところを丹念に探していけば, まだ多くの地点で確認できるものと思われた. 兵庫県での記録がほとんどないとのことなので, ここに報告する.

【確認情報】

1. 採集・撮影: 小野市下大部町 (加古川の河川敷) (図1)

確認年月日: 2020年7月22日

訪花植物: ムラサキツメクサ (マメ科), アレチハナガサ (クマツヅラ科)

採集: 1 個体 目撃: 2 個体

2. 採集・撮影: 小野市黍田町 (加古川の土手)

確認年月日: 2020年7月23日

訪花植物: ミドリハッカ; 別名オランダハッカ, スペアミント (シソ科)

採集: 1 個体 目撃: 5~6 個体

3. 撮影: 小野市黍田町 (加古川の土手) (図2)

確認年月日: 2020年7月28日

訪花植物: ミドリハッカ; 別名オランダハッカ, スペアミント (シソ科)

撮影: 1 個体 目撃: 2 個体

4. 採集: 加東市野村 (加古川の河川敷)

確認年月日: 2020年7月28日

訪花植物: ムラサキツメクサ (マメ科)

採集: 1 個体 目撃: 2 個体

5. 採集: 加古川市尾上町養田 (加古川の河川敷)

確認年月日: 2020年8月3日

訪花植物: ムラサキツメクサ (マメ科)

採集: 1 個体 目撃: 1 個体

6. 採集: 加古川市上荘町都染 (加古川の右岸側河川敷)

確認年月日: 2020年8月22日

訪花植物: ツルボ (キジカクシ科)

採集: 1 個体 目撃: 1 個体

7. 採集: 西脇市大垣内 (加古川の河川敷)

確認年月日: 2020年8月4日

訪花植物: ムラサキツメクサ (マメ科)

採集: 2 個体 目撃: 2 個体



図1 兵庫県小野市下大部町, 2020年7月22日



図2 兵庫県小野市黍田町, 2020年7月28日

○参考文献

吉田浩史, 2019. 神戸市内の都市公園でトモンハナバチを目撃. きべりはむし, 42(2): 61

(Takeshi SHIBATA 兵庫県明石市)

2006年に確認されていた神戸市でのセイヨウオオマルハナバチの訪花記録

池田健一

セイヨウオオマルハナバチ *Bombus terrestris* (Linnaeus, 1758) はヨーロッパ原産の特定外来生物で, 日本へは1991年に静岡県農業試験場で試験導入されたのが最初で, その後, オランダ, ベルギー, イギリス, イスラエルから, 女王バチを中心とする家族であるコロニー単位で本格的に輸入され, 全国各地で作物の花粉媒介を行う園芸資材として利用されてきたものが広がっていた (自然環境研究センター, 2008). 兵庫県下では吉田 (2000) の記録がある. その他の県内の記録は鷺谷 (1997), 保全生態学研究会 (2003), 保全生態学研究会 (2005),

横山ら (2003), 横山ら (2004) にも記載がなく, 存在する可能性はあるが, 保全生態学研究会 (2005) の別表を示したウェブページや, 本種の日撃・標本記録を整理した保全生態学研究会のウェブページは現在リンク切れを起こしており, 参照できなかった.

古い記録ではあるが, 筆者は 2006 年 5 月 14 日 17 時ごろ, 神戸市西区伊川谷町井吹の畑にてタマネギ *Allium cepa* L. に訪花していた本種を撮影していた記録が残っていたのでここに報告する (図 1). これは池田 (2020) と同地点である. 本種は 2005 年に特定外来生物に指定されているが (国武・五箇, 2006), 何らかの理由で逸脱していた個体の可能性がある. 定着は不明である. 当時ハウス栽培をしていた地点は筆者は確認していない. タマネギへの訪花記録は鷺谷 (1997), 保全生態学研究会 (2003), 保全生態学研究会 (2005), 横山ら (2003), 横山ら (2004), 多田内・村尾 (2014) でも記録がなく, 少なくとも国内での文献での記録は少ないと思われる.

飼育規制の強化や (環境省, 2019), 逃亡防止のためのネット技術が進展している (小出ら, 2008) 現在でも確認できるかは不明だが, 当時の兵庫県下の文献としての記録や訪花記録としては少ない例と思われたので報告する.



図 1 神戸市西区伊川谷町井吹, 2006 年 5 月 14 日.

○引用文献

- 保全生態学研究会, 2003. マルハナバチ一斉調査 (第六報). 保全生態学研究, 8(2): 175-180.
- 保全生態学研究会, 2005. マルハナバチ一斉調査 北海道と栃木県でのセイヨウオオマルハナバチの確認. 保全生態学研究, 10(1): 85-87.
- 環境省, 2019 年 12 月 17 日最終更新. セイヨウオオマルハナバチ. <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/seiyou.html>
- 小出哲哉・山田佳廣・矢部和則・山下文秋, 2008. 温室におけるマルハナバチ逃亡防止のためのネット展開技術. 日本応用動物昆虫学会誌, 52(1): 19-26.

国武陽子・五箇公一, 2006. 農業用導入昆虫の生態リスク管理と将来展望 セイヨウオオマルハナバチの特定外来生物指定. 植物防疫, 60(4): 196-198.

池田健一, 2020. 神戸市西区におけるアヤモクメキリガ幼虫の記録. きべりはむし, 43(1): 60.

多田内修・村尾竜起, 2014. 日本産ハナバチ図鑑, 479pp. 文一総合出版. 東京.

鷺谷いづみ, 1997. セイヨウオオマルハナバチの日撃・標本採集についての情報 (1997 年 6 月まで). 保全生態学研究, 2(2): 103.

横山潤・松村千鶴・杉浦直人・松本雅道・加藤真・鈴木和雄・鷺谷いづみ, 2003. 在来マルハナバチ類保護のためのセイヨウオオマルハナバチの野生化状況の評価と駆除方法の開発. プロ・ナトゥーラ・ファンド助成成果報告書, 12: 3-10.

横山潤・松村千鶴・中島真紀・杉浦直人・松本雅道・加藤真・鈴木和雄・鷺谷いづみ, 2004. 在来マルハナバチ類保護のためのセイヨウオオマルハナバチの野生化状況の評価と駆除方法の開発 (2). プロ・ナトゥーラ・ファンド助成成果報告書, 13: 47-54.

吉田浩史, 2000. セイヨウオオマルハナバチを兵庫県で確認. Nature Study, 46(1): 12.

自然環境研究センター, 2008. 日本の外来生物 決定版, 479pp. 平凡社. 東京.

(Kenichi IKEDA 東京都狛江市)

神戸市西区にてヨモギにいるクモガタテントウを確認

池田健一

クモガタテントウ *Psillobora vigintimaculata* (Say, 1824) は南部アラスカ, カナダ, アメリカ, 北部メキシコを自然分布としており (佐々治, 1992), 日本には 1984 年に東京の大井埠頭で記録された外来種である (窪木・和泉, 1985). その後, 神奈川県 (松原, 1986; 高桑・中村, 1989), 大阪府 (齋藤, 1991; 初宿, 2006; 河上, 2007), 兵庫県 (初宿, 2000), 奈良県 (桜谷・松本, 2002), 千葉県 (山崎, 2011), 京都府 (中島ら, 2006; 河上, 2007; 日高, 2015), 愛知県 (大塚, 2012; 山崎, 2016), 滋賀県 (滋賀県, 2019) などで記録があり, 大阪市立自然史博物館では大阪・近畿地方を中心とした外来生物調査プロジェクトでの調査種として扱われている (初宿, 2018 最終更新). 日本では都市部, 平地に棲息し, 成虫越冬する (初宿, 2005). うどんこ病やすす病をおこさせる子嚢菌食性で (初宿,